

道南太平洋海域スケトウダラニュース

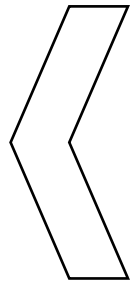
平成17年度 第1号

2005年9月29日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

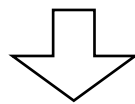


道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成17年8月31日～9月6日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～500m海域

水深150m以深の水温は5 以下とスケトウダラに好適
魚群反応は地球岬沖から白老沖と渡島側に分布
分布水深は200～300m前後
スケトウダラの平均反応量は低い水準



- ・漁期はじめの漁場は例年よりやや浅く、水深200～300mに形成
- ・魚の来遊は遅れている可能性

1. 調査海域の水深150m以深の水温は5 以下となっていました（図1）。
2. 魚群は、地球岬沖から白老沖（海区番号183、185）と渡島側の189海区に分布していました（図2）。
3. スケトウダラと考えられる魚群は水深200～400mの範囲に観察されました（図3）。
4. 胆振海域ではトロール調査の結果、300m以深の反応はイトヒキダラ、渡島側ではスケトウダラ成魚でした。200～300mの反応はトロール調査による確認ができていませんが、スケトウダラ成魚と小型の未成魚と思われます。
5. 調査海域の魚探平均反応量は、昨年と同程度の低い水準でした（図4）。
6. 現在のところ、水温環境はスケトウダラにとって好適なようです。
7. スケトウダラの分布水深は連年よりやや浅めなので、漁期はじめには例年よりやや浅く水深200～300m前後に漁場が形成される可能性があります。
8. スケトウダラの反応量が少なかったことから、魚の来遊が遅れていると考えられます。10～11月の漁獲量は昨年同様2万トン程度と予想されます（図4）。
9. 漁期前の計量魚探調査の結果は、漁期はじめの状態を調べる調査です。今後10月末、11月末、1月中旬にも調査を実施する予定ですので、続報に注意して下さい。

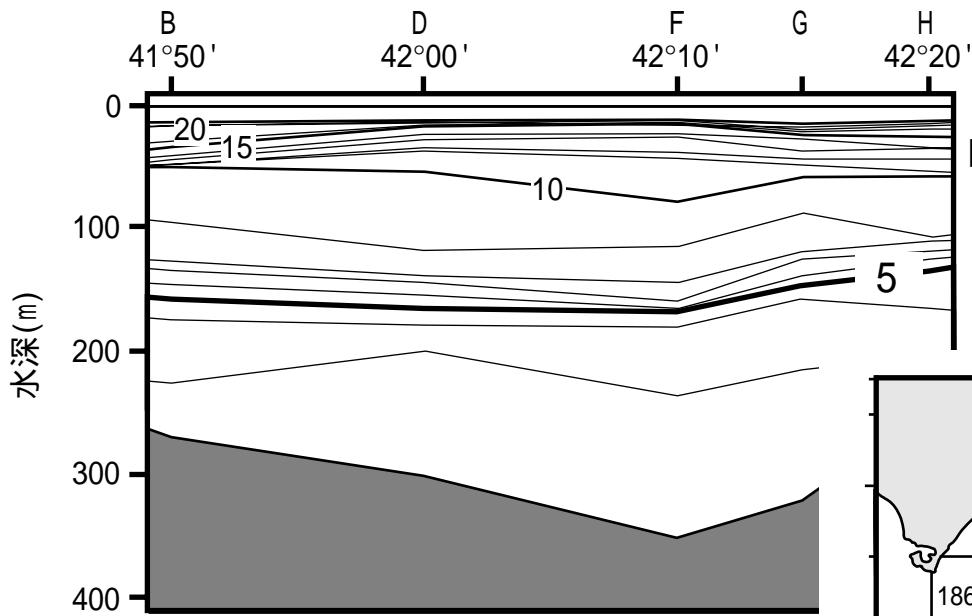


図1 . 141度20分の水温断面

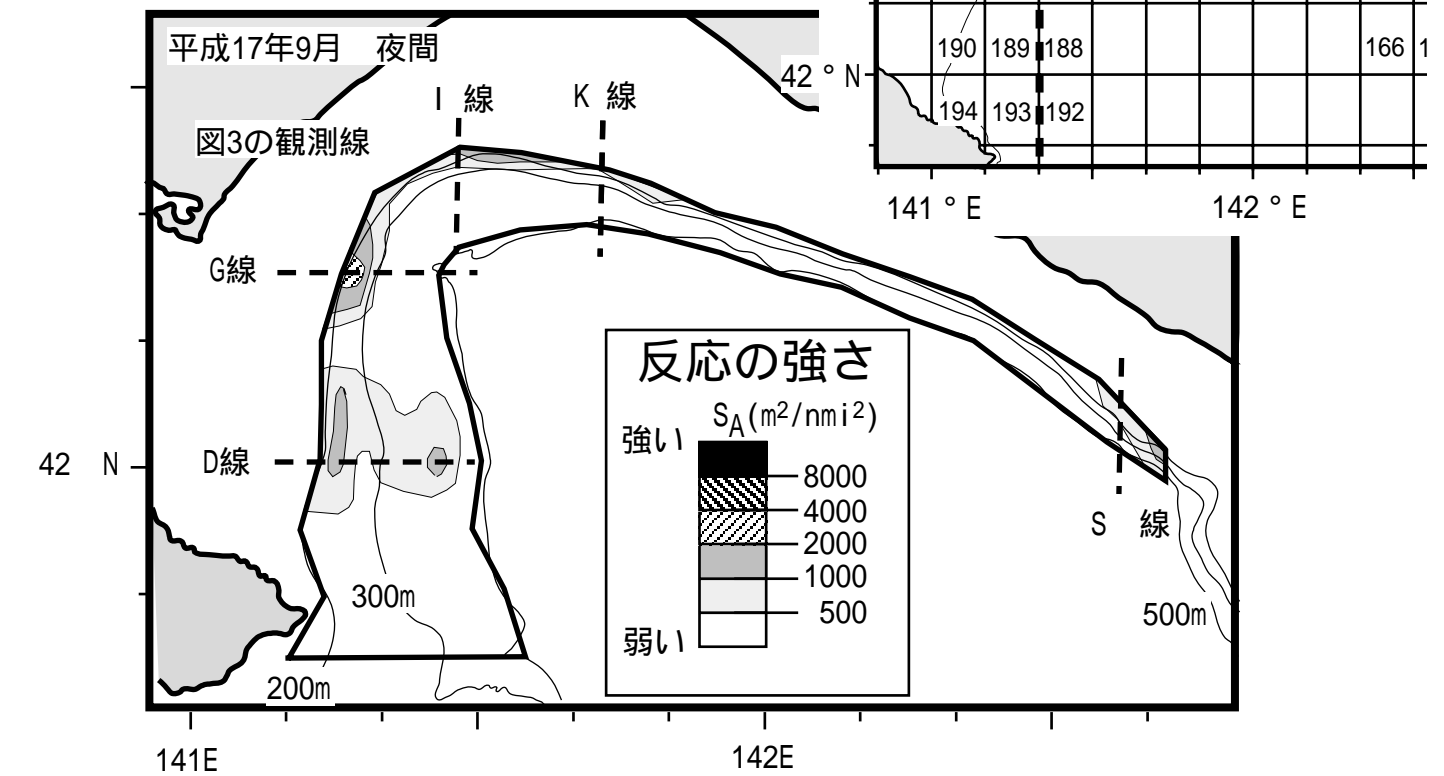


図2 . 調査海域における魚群の分布
黒ワケの中が調査範囲

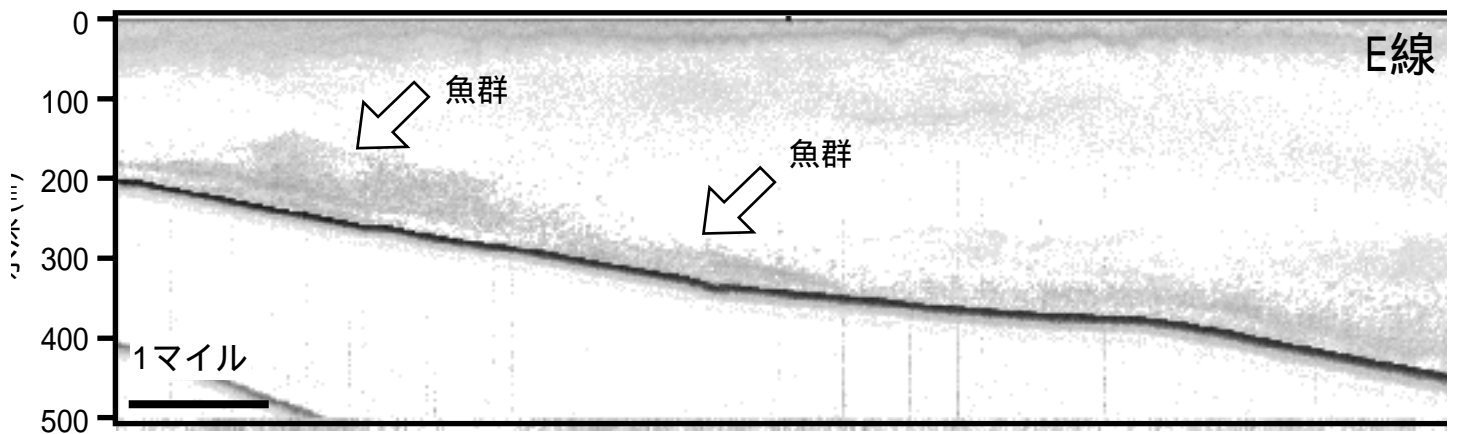


図3 . 魚群の分布 (計量魚探画像)

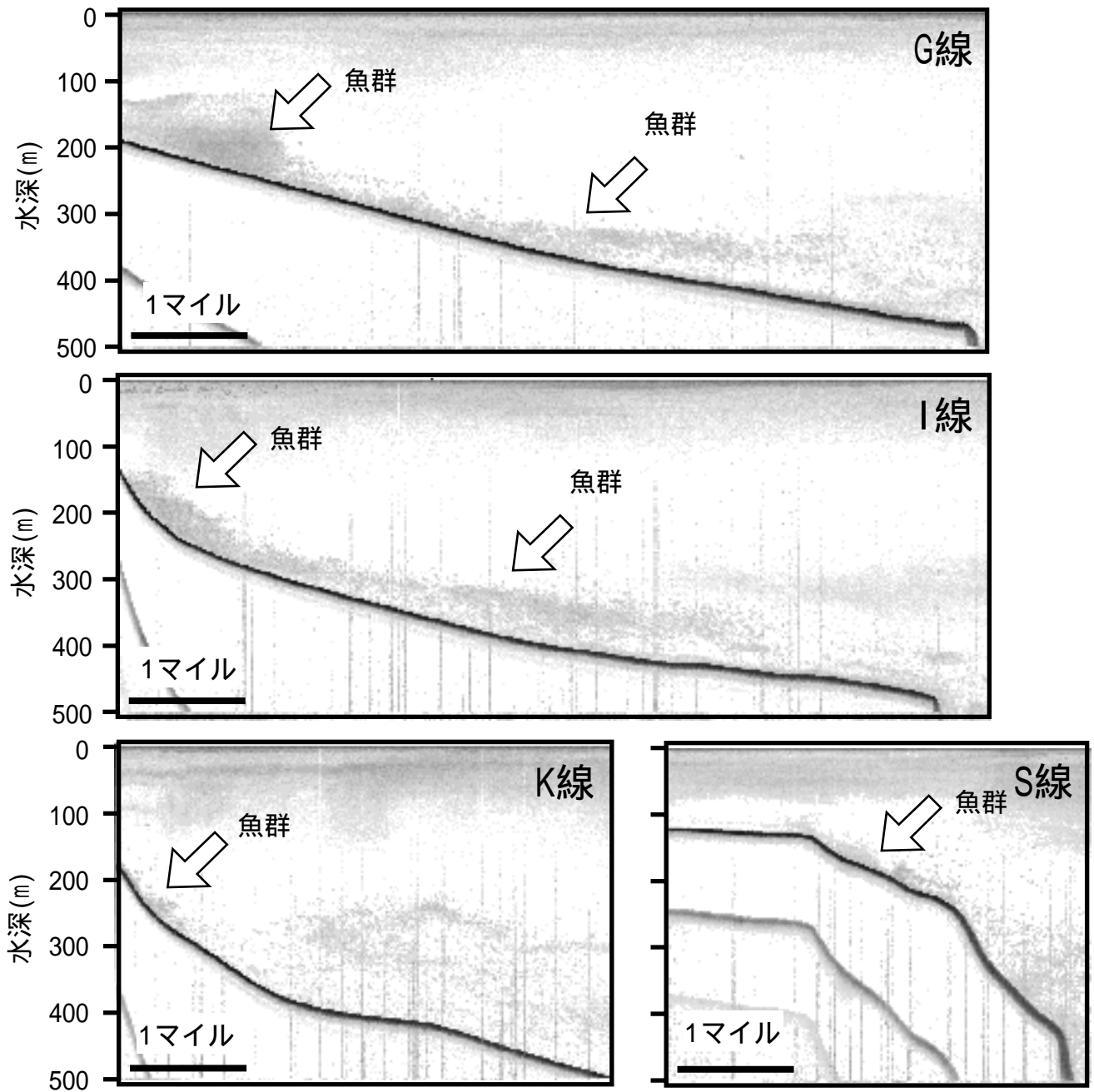


図3．魚群の分布（計量魚探画像）つづき

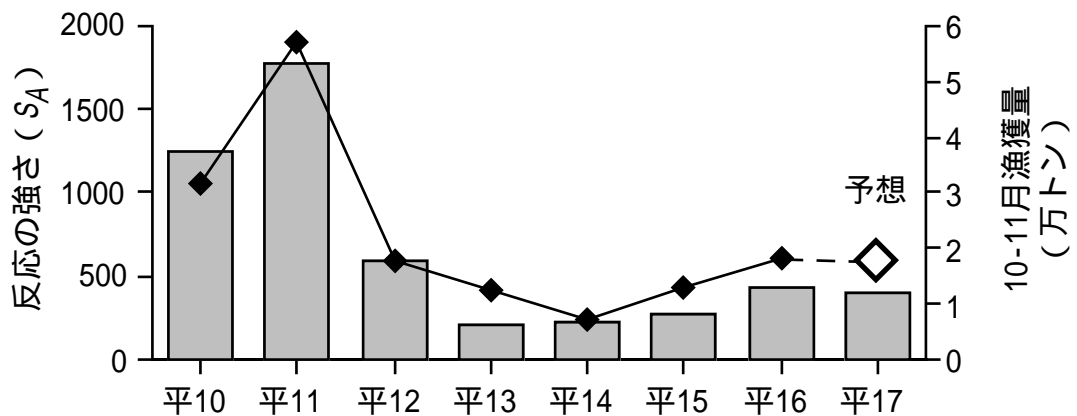


図4．魚探反応の強さ（棒グラフ）と10～11月の漁獲量（折れ線グラフ）の関係